

高田
本山
だより

憲法と親鸞聖人

前法主殿

輝けいのち

さよならニ尊さま

迫る伝灯奉告法会

自灯明法灯明

103

説法師子吼



第89回 仏教文化講座

今年も賑やかに大勢の聴衆をむかえて、仏教文化講座が盛況に開催されました。多分野の講師を招き、いろいろな視点から仏教といのちをとりまくお話を伺いました。初日には前法主殿から「憲法と親鸞聖人」という講題で御親講いただきました。

御親講は、聖人がもしも今の世を生きておられたとしたら、昨今の世相にどのような思いをもたれるのだろうかとの問いの提起から入られ、聖徳太子を父母のように慕われ、尊崇された聖人が「十七条憲法」を深く味わい、和讃しておられること、そもそも「憲法」とは何か、「十七条憲法」には何が語られているか、「十七条憲法」に照らし、我が国の現行の憲法をどのように受け止めていくべきかについてお話しされました。

「十七条憲法」は『日

本書紀』に記述されていますが、ここでは「憲法」を「いつくしきのり」としている。「いつくしき」は、神聖なものとして大切にすること、「のり」は、めったに口にできない尊いことを口にしたものであり、「いつくしきのり」とは、「めったにない神聖さをそなえたおごそかな尊いもの」との意であって、このことから、憲法は簡単に変えるべきものではない。我が国の現行の平和憲法も大切にしつつ、聖人がおっしゃる「万国（まんどく）たすけの棟梁」として、世界の平和をリードしていくべきである。人間は、自分がいちばん愛おしい、それはだれもが同じである。だから傷つけることがあってはならないというのが仏教の基本であり、平和の基本である。仇討ちの思いが世界に充満する現代に、怨みを棄てよとの釈尊の教えにしたがい、それぞれの大切ないのちを拝み合うことのできる世界の実現を目指したいのとこのとでお話いただきました。

（表紙写真）

仏教文化講座主監

栗原 廣海

映像いろいろ高田本山

咲き乱れる蓮のまわりで写真撮影教室が開催されました



なにかと、話題のドローンを使ったテレビ局の撮影がありました。



名古屋栄のギャラリーで高田本山の写真展が開催されました。



WEB VERSION

伝灯奉告法会 来春に迫る

このご縁にご参集ください



法灯を次代へと
伝えつながる

平成 28 年 **3 月 25 日**から
27 日まで

第 25 世伝灯奉告法会

- 25 日 金曜日**
 10:00 午前法会
 11:30 お稚児さん
 13:00 午後法会
 14:00 記念講演
- 26 日 土曜日**
 10:00 午前法会
 11:30 祝賀行事
 13:00 午後法会
 14:00 記念講演
- 27 日 日曜日**
 9:00 御参廟
 10:00 午前法会
 11:30 祝賀行事
 13:00 午後法会
 14:00 記念講演

詳しくは本山宗務院内
伝灯奉告法会事務局まで

第二十五世伝灯奉告法会に御参詣お願い
 このたびの伝灯奉告法会は、御法主が高田派本山専修寺の住職としての責任を受け継がれて、皆様とともに念仏の世界で暮らしたいという思おぼし召めしの法要であります。

前御法主の跡を受け継いで、新たな法灯の継承を祝し、念仏のみ教えの興隆と宗門の発展を期して、平成二十八年三月二十五日より二十七日まで伝灯奉告法会を執り行います。

この慶祝行事に、住職、檀信徒がこぞって参詣し、聞法に励む機縁とし、また念仏の生活を深めさせていただくご縁として一人でも多くの方々が御参詣いただきますことを心からお待ち申し上げます。

真宗高田派本山専修寺 宗務総長 安藤光淵

合掌

常磐井慈祥法主殿のご紹介

- 昭和 34 年 生まれ
 昭和 46 年 得度仏門に入られ
 法名を慈祥と号される
 平成 4 年 法嗣となられる
 平成 25 年 伝灯式を行い第 25 世法主に就任される
 平成 26 年 全日本仏教会副会長に就任される

法主殿御巡教 西へ

長崎・鹿児島御巡教

鹿児島組福傳寺 疋田 浄晃

平成二十七年七月二十九日午前、長崎専光寺での御巡教を終え、九州新幹線にて鹿児島中央駅に法主殿御一行が到着されました。車で約一時間、薩摩半島の西海岸、吹上町に福傳寺があります。二日前の台風も去り最高気温三十四度の夏らしい晴天のもと午後一時からの法会に先立ち梵鐘の音と共に百人を超えるお同行が参拝下さいました。

法主殿が来寺されるのは約四十五年振りでお同行の方々も久々の御縁を、心待ちにしております。

御親修は小経略伽陀で始まり法主殿御昇堂、御焼香、御登盤、仏説阿弥陀経、三重念佛一首和讃、廻向文、御降盤とつづきました。

鹿児島県に高田派は三ヶ寺あり福傳寺より南へ約 10 km 離れた大縁寺の芳尾慶間先生も御出勤頂き、長男の直浄とお参り頂いたお同行と共に声高らかに勤め致しました。

引きつづき、法主殿の御親教をいただきました。北は北海道旭川から南は鹿児島まで高田のお念仏が脈々と行き渡っている事がとても有難い。鹿児島では圧倒的に本願寺派が多いが、高田派は

本願寺派にはない独特の信仰や習慣があり、神道と仏教の境がはっきりしていなかった鎌倉時代、親鸞聖人の教えは高田派の一光三尊佛（善光寺信仰）、証拠の如来（天台宗の仏様）等を例に親鸞聖人の直々のものを伝えていることなどをお話頂きました。最後に鹿児島のお同行がお念仏を頂いてお念仏と共に生きている姿をご覧になり感動なされて、感謝のお言葉をいただきました。

次に住職による寺院紹介、つづいて鈴木紀生総務の復演にうつり「応現」をテーマに法話をいただきました。

最後に混雑する本堂で一緒に記念写真を撮り、とても和やかな雰囲気となりました。

原稿を書いている今、半月が過ぎましたがお同行と会う度「素晴らしい法会でした」「感激しました」と言ってお行き感動が蘇ってきます。写真に写っているお同行の顔を拝見しますと、心から喜んでおられる表情が溢れており忘れられない日となりました。法主殿にはまことに有難いご法縁をいただきました。

また、今回のことでお同行の思いがひとつになったように思います。来年の伝灯奉告法会の話をしていきますと是非参拝したいという声が聞こえてまいりました。



WEB VERSION

三尊さまとの再会

京都別院出開帳

六月十四日、一光三尊
仏出開帳が京都別院で行
われました。ここ京都に
は第百十五代桜町天皇が
三尊さまと出遇われ、感
得されつくられた木製の
三尊さまが安置されてい
ます。二躰の三尊さまが
そろってご開帳になると
いう奇縁に京都別院は賑
わいをみせておりました。



三尊さまとの再会

福井仙福寺出開帳

仙福寺住職 佐々木真修

前回平成十一年の出開帳から十七年の歳月が流れ、
当山の前任職をはじめ、当時ご尽力いただいた多くの
同行衆が往生されました。そうした中、全てが手探り
状態の出発でしたが、今回の出開帳もまたたくさん
の同行衆の力添えをいただき、盛大に御開扉法会を迎え
ることが出来ました。
法会前日には、興行列にて同行宅四軒にお立寄りし、
同行衆の親族に限らず、その近隣地域の多くの方々にも
参拝いただきました。



三尊さま出開帳

他派とのご縁

東本願寺出開帳

六月九日・十日、
東京の東本願寺へ三尊さ
まが出開帳になりました。
高田派だけの三尊さま
ではなく親鸞聖人直拝の
三尊さまが、真宗門徒・
同行みなのおかげさまと
して架け橋になればと思
います。



法会当日は天候にも恵まれ、
慶讃法会、庭儀式、一光三尊
佛絵伝の絵説き、高田派鑑学
栗原廣海師による記念講演、
内陣通り参拝等を通してより
身近に三尊様とのご法縁を喜
んでいただきました。
三尊様との再会を懐かしむ姿
に混じり、今回初めて三尊様
の尊いお姿を拝して喜ばれる
姿をたくさん目にしました。
同行衆一同改めて三尊様との
深いご縁を実感させていただ
いた四日間のお迎えでござい
ました。

WEB VERSION

七高僧シリーズ 「源空聖人 下」

親鸞聖人は『浄土高僧和讃』源空聖人の三首目に

善導源信すすむとも

本師源空ひろめずは

片州濁世のともがらは

いかでか真宗をさとらまし

と讃嘆されています。

中国では善導大師が、日本では源信僧都が、阿彌陀仏のみ教えを勧めてくださったけれども、本師源空（法然）聖人が、だれでも入りやすいお念仏をひろめてくださらなかったら、この小さな島国日本の濁りきった時代

の念仏者は、どうしてまことの本願念仏のみ教えにあうことができるのでしょうか。

親鸞聖人は比叡山で大乗仏教のみ教えを深く学ばれ実践されました。数多くの教典や高僧

たちの書物を読まれたにちがいありません。そのなかには、お念仏を勧められた善導大師や源信僧

都をはじめ諸師の書かれたものも読まれ、強い影響を受けられたと思われ

ます。それでも、親鸞聖人にとつては、源空聖人によつて弥陀の本願が説かれ、お念仏を勧められたからこそ、聞くことができた

み教えであり、直接教え

を受けられた源空聖人との出会いが、親鸞聖人の信仰、そして人生の一大転換点となったのです。

また親鸞聖人の弟子唯田が親鸞聖人の法語を集めたといわれる『歎異抄』には

「弥陀の本願まことにおわしまさば、釈尊の説教、虚言なるべからず。仏説まことにおわしまさば、善導の御釈、虚

言したまうべからず。善導の御釈まことならば、法然のおおせそら

ごとならんや。法然のおおせまことならば、親鸞がもうすむね、ま

たもつて、むなしかるべからずそうろうか。詮ずるところ、愚身の

信心におきてはかくのごとし。」（後略）

と親鸞聖人が本願念仏の信心を獲得できたのは、源空聖人への深い信頼と敬慕の念、さらに釈尊の教説はもちろん、浄土のみ教えの流れをくむ高僧の相承・伝承の賜りであることが述べられています。

約八四〇年前、源空聖人によつてお念仏の火が灯され、私たちに受け継がれてきました。永い歴史の中で私たちの諸先達が、そのみ教えの火を絶やさぬよう心血が注がれてきたことと思えます。私たちをお救い下さる阿彌陀仏のみ教えの灯が消えないように受け継いでいかなくはなりません。（教学院第三部会）

本山行事に

参加しませんか

坊守婦人会合同研修会

平成27年11月5日～6日

中学生教化合宿

平成28年3月31日

～4月2日

こどもがいっぱい本身体験



八月五日から三日間、今年も歴史まるごと体験塾が開催され百名をこえる子供たちの声が山内に響き渡りました。今回は普段入ることができない山門にも上がつて釈迦三尊さまとご対面です。

リレー法話

いのち

保智院住職 松山孝彦

昨年、満百一歳と満百二歳の方が亡くなられ、お葬式をさせていただきました。長寿命国となった今の日本では、あまりめずらしい事でもなくなりました。

七月三十日、厚生労働省が公式サイトにおいて、二〇一四年の日本の平均寿命は男性が80・50歳、女性が86・83歳となり、男性では世界第三位、女性では世界第一位の長寿命を誇る結果となったと発表しました。

世間では、いわゆるこの平均寿命なる数字が独り歩きし、あたかも八十歳まで、八十六歳までは生きられるかのように考える人も多いようですが、私だけでなく誰一人としてそんな保証があるわけではありません。確かに百歳まで生きられる人は年々増えているようですが、しかし平均寿命に至らず終えるいのちもたくさんあります。人はそれぞれの縁の中に終わってゆかねばなりません。いのちの長さに価値があるのではありません。長くても

短くて一回限りの大切ないのちです。

私が今、その大切ないのちをいただいているということは大変なことなのです。いつ死んでも不思議ではない私が今生かされているのです。あたりまえではありません。目には見えませんが、多くのいのちの働きのおかげで今生かされているのです。すべてのおかげさまなのです。

絵本「いのちのまつり・ヌチヌグスージ」の作者、草場一壽さんは次のように述べられています。

時空を越えてつながっている

「いのち」は目には見えません。

それを支えてくれている

「おかげさま」も目には見えません。

見えないものを感じる力を育まなければ、

なぜ「いのち」が大切なのかも

感じられないと思うのです、と。

私たちは生かされていることを忘れ、自分の力で生きていると思いがかり、いのちの事実を見失っているのではないのでしょうか。

WEB VERSION

